

<2021年度 オリンピック・ムーブメント事業>

JOCオリンピック教室

— 実施報告書 —

岐阜県 下呂市立下呂中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2021年4月～2022年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ



2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、
生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

● 時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：小塚 崇彦 先生 (スケート / フィギュアスケート) 【出場オリンピック / バンクーバー大会】

■期 日：2022年1月14日(金)

■ク ラ ス：2年A組 / 運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



- ・自己紹介の後、オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」「少しずつ頑張ること」、フレンドシップ：「友情」「お互いに手を取り合って頑張ること」、リスペクト：「敬意/尊重」「ルールを守る」と説明し、運動の時間を通して、この3つの価値を体験してほしいと授業の目的を確認。
- ・準備体操としてストレッチを行った後、男女別に分かれてコーン間を4種のステップで走るウォーミングアップと新聞紙じゃんけんバランスを実施した。

○主運動 等



- ・ボール渡しリレー (全2回)
班毎の対戦とし、サッカーボールを使用。スタート地点から折り返し地点のコーンを回り、ゴールするまでに全員がボールを触り、次の人に渡す。全員が必ず折り返し地点のコーンを回り、ゴール後に全員が座った時点でゴールとした。



- ・運動の時間を振り返り、決められたルールの中でどのようにすればルールを守りながら如何にボールを早く渡せるのか、柔軟な発想で様々な作戦を考えていた。ルールを守りつつ、記録を伸ばすために皆で相談しながら作戦を考えていたことがオリンピックバリューの3つの価値に繋がってくる。
- ・座学の時間では、オリンピック出場時の経験やオリンピックを目指すまでの過程を話し、オリンピックバリューについてさらに考える時間にと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 小塚 崇彦 先生 (スケート / フィギュアスケート) 【出場オリンピック / バンクーバー大会】

■ **期 日** : 2022年1月14日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年A組 / 座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックシンボルについて、五つの輪は五大大陸が繋がっている姿を表し、下地の白色と5色を使用することでほとんどの国旗を描くことができると説明。
- ・ピエール・ド・クーベルタンの写真を見せながら、古代オリンピックに感銘を受け、「スポーツを通じてより良い世界を作りたい」という目標を持って、1896年に第1回近代オリンピックをアテネで開催した近代オリンピックの父と呼ばれる人物と説明。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



- 個人ワーク発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを考えてみよう。
 グループワーク発問：実力テストでどのようにオリンピックバリューを活かすことができるか考えてみよう。
 グループワーク回答：エクセレンス：「普段からコツコツ勉強をする」「目標を立て授業をしっかり聞く」等
 フレンドシップ：「問題を出し合う」「テスト前に声を掛け合って高め合う」等
 リスペクト：「テストを作ってくれた人に感謝する」「教えてくれた人に感謝する」等



- ・オリンピックバリューの3つの価値を考えたピエール・ド・クーベルタンはオリンピックに結果だけを求めるのではなく、3つの価値を日常生活でも継続的に考えてほしいという思いが込められている。今後の生活の中で様々な目標を持つと思うが、目標を達成するためにはどのようにすればよいかオリンピックバリューの3つの価値に当てはめて考え、充実した日常生活を送ってほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：小塚 崇彦 先生 (スケート / フィギュアスケート) [出場オリンピック / バンクーバー大会]

■期 日：2022年1月14日(金)

■ク ラ ス：2年B組 / 運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



- 2010年バンクーバー大会にスケート/フィギュアスケート競技の日本代表として出場したと自己紹介。フィギュアスケートをテレビ等で見たことがあるかと生徒へ問い掛け、運動の時間では、実際の競技ルールを加味した内容も実施していくので、競技やオリンピックについて体感しながら取り組んでほしいと授業の目的を確認。
- ストレッチや回転ジャンプ等を行った後、準備運動として、コーン間を4種のステップで走るウォーミングアップと新聞紙じゃんけんバランスを実施した。

○主運動 等



- ボール渡しリレー (全2回)
班毎の対戦とし、サッカーボールを使用。スタート地点から折り返し地点のコーンを回り、ゴールするまでに全員がボールを触り、次の人に渡す。全員が必ず折り返し地点のコーンを回り、ゴール後に全員が座った時点でゴールとした。



- 運動の時間を振り返り、決められたルールの中でどのようにすればルールを守りつつ、感染症対策も講じながら如何にボールを早く渡せるのか、柔軟な発想で様々な作戦を考えていたと称えた。
- 座学の時間では、オリンピック出場時の経験やオリンピックを目指すまでの過程を話し、オリンピックバリューの3つ価値について、さらに掘り下げて考える時間にしていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 小塚 崇彦 先生 (スケート / フィギュアスケート) 【出場オリンピック / バンクーバー大会】

■ **期 日** : 2022年1月14日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年B組 / 座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・オリンピックシンボルについて、五つの輪は五大大陸が繋がっている姿を表し、下地の白色と5色を使用することでほとんどの国旗を描くことができると説明。
 ピエール・ド・クーベルタンについて、「スポーツを通じてより良い世界を作りたい」という目標を持ち、近代オリンピックを開催するために世界各国・地域の人にオリンピックを理解してもらうためにはどのようにすればよいかを考え、オリンピックバリューの3つの価値を見出したと話す。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



個人ワーク発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを考えてみよう。グループワーク発問：7回の実力テストでどのようにオリンピックバリューを活かすことができるか考えてみよう。

グループワーク回答：エクセレンス：「毎日勉強をする」「スキマ時間に単語帳を見る」等
 フレンドシップ：「信頼できる友達を作る」「友達と教え合う」等
 リスペクト：「カンニングをしない」「教えてくれた人に感謝する」等



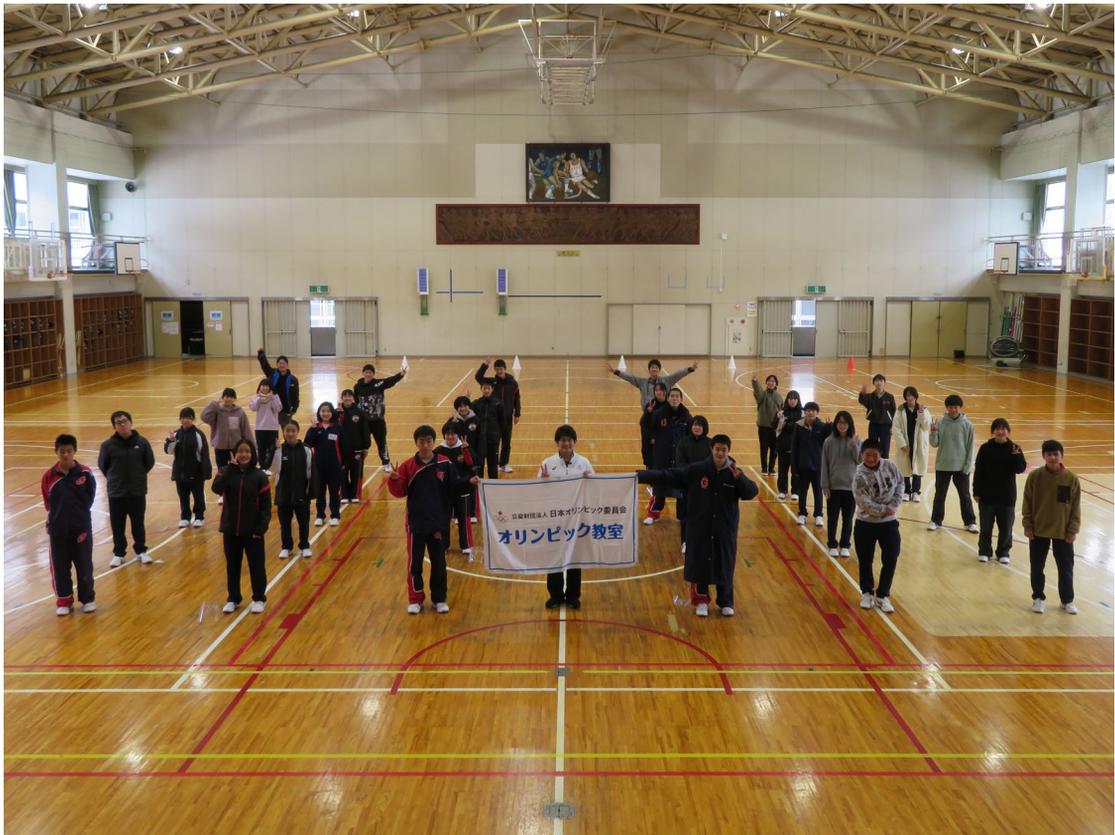
・座学の時間を振り返り、ピエール・ド・クーベルタンはオリンピックに結果だけを求めるのではなく、「メダルを獲得するために努力したことやオリンピックに出場するために練習を重ねたことが大切」と唱えている。今後の生活の中で様々な目標を持つと思うが、目標を達成するにはどのようにすればよいか、オリンピックバリューの3つの価値に当てはめて考え、充実した日常生活を送ってほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年A組



・2年B組



■ 記念品贈呈

・2年A組



・2年B組



■ 修了証贈呈

